

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月 日

協議会名: 中井町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
神奈川中央交通西株式会社	運行系統名: 中井町オンデマンドバス (通称:中井ふれあいバス) 運行区域: 中井町内全域(乗降ポイント118箇所)を対象としたデマンド型交通システム(区域運行型)	公共交通空白地域の解消だけでなく、町全体の魅力を高める移動手段として、平成25年1月10日から運行している中井町オンデマンドバスについて、大規模な見直しを実行しない代わりに、より必要とする利用者のための運行体制の見直し・改善(運行エリアや乗降ポイント、予約方法等)を図るため、地域の利用状況を深掘りして分析し、需要予測から持続可能な地域公共交通システムを探る期間とする計画となっている。	A 町外への長距離・長時間運行の占有により予約が取りづらくなっていた状況を解消するため、町外乗降ポイントを廃止し町内完結型運行に切り替え1年半が経過した。予約の取りづらさが改善され、当日予約にも増加傾向がみられた。また、利用者の属性や利用目的、利用状況等を深掘り分析し、実態に合わせた運行体制の構築の検討を行っており、計画通り事業は適切に実施された。	B 令和元年度(令和元年9月末現在) 利用者数:38.8人/日 町内完結型運行に切り替え、1年半が経過した。当初目標とした42人/日以上は下回ったものの、前年度と比較して交通空白地域の人や高齢者、児童生徒など本来救うべき移動手段の無い人等の利用が大幅に増えたことから、比較的安定した状況を保っているものと思われる。登録者数も微増ではあるものの増えており、公共交通空白地域の人や、高齢者、児童生徒等の移動手段としては一定の利用が維持されている。	町内完結型運行に切り替え、長距離・長時間運行を制限したことにより本来救うべき移動手段の無い人等の利用が増え、利用しやすい環境に変わってきた。しかしながら、現行の運行体制では、いずれ物理的に可能な予約数の限界に達するものと分析している。この課題を改善するため、公共交通をより必要とする町民(本来救うべき移動手段の無い人等)により利用してもらい量より質の運行体制を検討していく必要がある。また、引き続き、運転免許証自主返納者に対してオンデマンドバスの回数券を交付し、生活の足としての利用を促していくとともに、利用方法の周知などPR活動も併せて実施し、利用状況の検証を行いながら、町民のニーズに合わせた運行体制への見直しの検討を進めていく。

【各評価項目の評価基準】

④事業実施の適切性

- A…事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。
- B…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった。
- C…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった。

⑤目標・効果達成状況

- A…事業が計画に位置づけられた目標を達成した(する見込み)。
- B…事業が計画に位置づけられた目標を達成できていない点があった(一部達成できない見込み)。
- C…事業が計画に位置づけられた目標を達成できなかった(達成できない見込み)。